

栃事研会報



第82号 平成26年7月10日発行
栃木県公立小中学校学校事務職員研究協議会
編集発行人 岡崎 信二

<主な内容>

- ・会長あいさつ、副会長あいさつ … 1
- ・栃事研研修会並びに総会レポート … 2
- ・共同実施について … 3
- ・事務局、専門部紹介 … 4

栃事研HP <http://tochijiken.org/>

会長あいさつ

栃事研会長 岡崎 信二

5月30日の総会におきまして再任をご承認いただきました。4期目に入りますが、引き続き会長という重責を担うことになりました。これまで栃事研は、歴代会長のご尽力のもと、着実に発展、成長を遂げてまいりました。微力ではございますが、さらなる栃事研組織の充実を図り、新しい時代へ向けての基盤づくりをしていきたいと思っております。役員一同、総力を挙げて取り組みますので会員の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、栃事研は現在「とちぎの学校事務ビジョン」に基づき諸活動を実施しております。「組織化」「能力開発」「経営参画」の3つをとちぎの抱える課題とし、その解決によりビジョン達成を目指そうとしています。共同実施の全県実施に向けた活動、「研修の体系化」に基づく研修の実施、28年度関プロ長野大会提案に向けた事務職員の経営参画の研究などが、その具体的活動になります。引き続きご支援、ご協力をいただければ幸いです。

ところで、昨年12月の中教審答申では、共同実施の活用や事務職員の専門性などが示されました。この期待に私たちはどのように応えていくのでしょうか。変化は、さらなる発展へのチャンスです。変化を的確に分析・判断し、実践、行動していくことが大切になります。学校は児童生徒、保護者や地域の願い・思いを実現していく場です。「応え」を皆様と共に考え「とちぎの学校事務」の創造を目指していきたいと思っております。会員の皆様のご支援、ご協力、そして参画をお願いいたします。また、本年度より組織の改編も行われます。会員による、会員のための栃事研組織を皆様と共に実現していきましょう。よろしくをお願いいたします。



副会長あいさつ

前副会長 岩木美津子（鹿沼市立西中学校）

平成26年度の総会をもちまして、副会長を退くことになりました。1年間ではありましたが、栃事研の活動を間近で見て、体験し、学ぶことがたいへん多かった一年でした。在任中は栃事研役員の方々はもとより、会員の皆様にはたいへんお世話になりました。

今後は一会員として栃事研の活動に前向きに参加し、協力させていただきたいと考えます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

新副会長 大島文男（日光市立大沢中学校）

この度、副会長に選出いただきました大島と申します。これまで理事として周辺から会の運営に関わらせていただきましたが、今年度は執行部の一員として関わることになりました。微力ではありますが、少しでも皆様のお役に立てればと考えております。

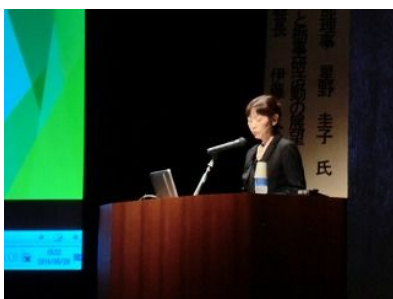
今年度から栃事研の組織改編に伴い、市・町を支部とした、新たな体制がスタートしました。とちぎの学校事務がよりよい方向へ進むために、支部・地区との連携を深め、会員の皆様とともに歩んでいきたいと考えております。どうぞよろしくをお願いいたします。

平成26年度 栃木県公立小中学校 事務職員研修会並びに総会



平成26年5月30日（金）平成26年度栃事研研修会並びに総会が宇都宮市文化会館小ホールにおいて開催されました。開会式には県教委をはじめ多くのご来賓の皆様に出席を賜りました。

総会では昨年度の事業報告、決算報告、会則改正案及び本年度の事業計画、予算案についてご審議いただき、つつがなく承認されました。



研修会では、**全事研研究開発部理事 星野圭子様**をお迎えし、「**組織開発を促す人材育成の在り方**」についてご講話いただきました。

全事研での研究の中で、学校マネジメントに関わる事務職員の在り方や、地域学校経営に関わる事務職員の役割とその具体的な方策について、説明いただきました。

また、組織にはマネジメントが存在し、異なる価値観をもった人々が目指す子ども像に向かってベクトルを同じ方向にするためには、その力の向上が必要不可欠であると述べられ、評価を中心とした人材育成について、学校事務部経営計画、学校評価など勤務校での取り組みを交えてわかりやすくご説明いただきました。

最後に静岡大会について、ぜひ足を運んで人材育成について理解を深めていただきたい、と述べられました。

次に、栃木の共同実施の全県実施に向けての課題や、栃事研としての取り組みについて、『**栃木県公立小中学校事務共同実施推進のモデル**』と**栃事研活動の展望**と題して、**栃事研伊藤久乃副会長**より説明がありました。

まず、「**栃木学校事務ビジョン**」の解決すべき3つの課題について栃事研の各専門部での取り組みの紹介と、「**栃木県公立小中学校事務共同実施推進のモデル**」が通達されるまでの経緯、及びこの「**モデル**」の概要説明がありました。さらに、ビジョン推進チームが作成したリーフレット「**とちぎの共同実施**」について、作成のポイントや内容が説明されました。最後に、共同実施の全県実施推進に向け、各自が動き始めたことを認識し、各市町事務研で積極的に課題解決に向けて取り組みを進めていっていただきたいとのまとめがあり、終了しました。



栃事研からのお知らせ



今後の主な予定

- 8月6日～8日 **第46回全国公立小中学校事務研究大会**
静岡県静岡市清水区
- 8月19日（火）**栃事研セミナー**
パルティとちぎ男女共同参画センター
- 10月3日（金）**ステージII研修（採用4～9年目）**
場所未定
- 12月5日（金）**学校事務研究大会**
宇都宮市文化会館



★★ 募集中 ★★

ただいま、会員の活用できる事務処理プログラムなどのデータを募集しています。一つのプログラムが多くの会員を支援することになりますので、皆様のご協力をお願いします。ご提供いただける場合は、hp@tochijiken.org まで送信してください。

ご不明な点は、広報部長（西那須野中学校 高野）までお問い合わせください。

= 特集 =

会員の皆様が、より詳しく知りたいことや栃事研からお知らせしたいことを、特集として会報に掲載することになりました。紙面の関係もありますが、会員の皆様に情報提供を行っていきたいと考えています。第1回目は、「とちぎの共同実施について」です。



とちぎの共同実施について

栃事研副会長 伊藤久乃

栃木県における学校事務の共同実施は今年で16年目を迎え、今年度も11校が加配を受けての研究指定を受けています。かねてより栃事研では、事務職員が組織的に学校事務を展開していくことによって教育活動支援の充実と学校経営参画の推進が図られると考え、「とちぎの学校事務」の創造と発展に向けて様々な検討を重ねてまいりました。共同実施に関する研究と情報の収集・提供に努め、資料の発行や情報提供、共同実施校連絡協議会の開催など、その推進に努めてきたところです。

そのような中、県教委による「公立小・中学校の事務処理に関する検討委員会」が開催され、共同実施の成果の確認や、全県実施を進めていく場合の課題や条件整備について検討されました。この結果を受け、平成24年11月8日に、「栃木県公立小・中学校事務共同実施推進のモデル」が県教委から各市町教委に向けて通知が出されました。このことにより、栃事研では事務職員間の共通理解を図ることはもとより、共同実施導入に向けての支援や教育委員会への働きかけ、県教委、校長会等関係機関との連携、周知活動などに取り組んでいるところです。

栃事研では、「共同実施」を「子どもたちが自ら成長し学ぼうとする営みを積極的に支援していく、とちぎの学校事務の実現に有効な手立て」として捉え、全県実施に向け様々な取り組みを行っています。平成25年度からスタートした「とちぎ学校事務ビジョン」では、「教育目標達成に向け、学校経営ビジョンを実現する」という「とちぎの学校事務」を創造していくためには不可欠な組織として、共同実施を位置付けています。そして、学校事務ビジョン推進チームを活用し、共同実施校連絡協議会の持ち方や「共同実施推進のモデル」に基づいたリーフレットの作成、各支部への働きかけなどを検討し、活動を展開してきました。特に平成25年度は、とちぎの目指す共同実施や組織の役割等を、事務職員以外の人にも分かりやすく、共同実施導入に向けての検討の場などで説明する際に、活用してもらえる資料としてリーフレットの作成を検討し、総会の折に配布いたしました。

質の高い学校事務の展開には、個々の事務職員の力量を高めていくと共に組織の支援が不可欠です。個に最も近い組織、学校経営につながった組織として、栃事研では「学校事務の組織化」として共同実施の推進を進めてきました。共同実施は、学校改善に向け教育活動を積極的に推進していくために、事務職員一人一人が様々な課題を教職員と共有し、解決に向けた手立てを講じることができるようサポートできる組織であり、その役割としては、「学校の事務業務の効率化」「教育活動支援」「経営参画の推進」「若年層や新採者のケアシステム」「研修実践支援」などが挙げられます。事務処理の効率化や能率化にとどまらず、教員と共に子どもの学びを考え、教育に深く関与し教授活動を推進する活動へと拡がり求めていくことが大切です。

共同実施は教育を推進していくための仕事組織であり、そのために有効に機能する組織であることが必須です。そして、「とちぎの共同実施」はその特色でもある、3段階のステップがあります。私たちは、その「ステップ3 より質の高い学校事務を提供し、学校経営に参画する段階」まで、目指していかなければなりません。教育活動支援や学校経営参画といった教育目標達成に向けて、有効に機能させるような共同実施の組織や取り組み内容が求められています。

栃事研では、画一的なものではなく、各市町の実状に応じた共同実施を目指しています。そこで、共同実施推進のためのリーフレットの作成と提供、研修会や教育委員会での説明の場への役員の派遣など、支部の取り組みに向けて人的・物的の支援を積極的に行っていきます。同時に、県教委、市町教委や校長会等の関係諸機関へ共同実施推進への理解を深めていただくよう、栃事研の諸事業や諸活動を通してより一層働きかけてまいります。各支部におきましても、共同実施推進に向け教育委員会への積極的な働きかけと共に、リーダーの育成や支部の研修も合わせて検討していただけますようお願いいたします。

平成26年度 事務局・専門部 紹介



廣田 則子 事務局長 (野木町立野木中学校)

平成26年度、栃事研の組織再編が総会に於いて承認され、新しい体制でのスタートとなります。

理事会は地区、市町支部の代表者で行い、より栃事研と地区、支部そして会員の皆さまとの連携を図り、とちぎの学校事務の確立を目指します。

また、平成24年度に学校事務ビジョンを積極的に推進する部署として「ビジョン推進チーム」を立ち上げました。主に共同実施の研究を深め、共同実施校連絡協議会の企画や、県教委から出された「共同実施推進のモデル」を基に、全県実施に向けたリーフレットを作成するなど、共同実施の導入と改善に取り組み、安定で質の高い学校事務の提供のための支援のための研究を行っています。これからも、会員の皆様に役立つ活動を進めてまいります。

阿久津 和恵 総務部長 (茂木町立中川小学校)

今年度の総務部はフレッシュな顔ぶれがそろいました。「栃事研概要」の作成・発行のほか、理事会・学校事務研究大会等の運営を行っています。関係諸機関・諸団体との連絡調整を図り、円滑で効率的な会の運営に努めていきます。

山崎 正子 財務部長 (宇都宮市立西が岡小学校)

財務部では、「チャレンジプラン」に基づく各種事業、会員同士を「つなぐ」活動が充実したものとなるよう、予算の有効執行に努めていきたいと思ひます。

高野 嘉優 広報部長 (那須塩原市立西那須野中学校)

広報部は、会報の作成をはじめ、栃事研HPの管理など広報活動の充実を図っています。会員の活用できる事務処理プログラムなどのデータを募集していますので、ご協力をお願いします。

研修部 倉澤由佳 部長 (日光市立清滝小学校)

研修部は、「研修の体系化」に基づき、各研修の企画運営を行うとともに、系統的・継続的な研修が各組織の連携のもと実施されるよう努めます。

1. 栃事研中期研究計画(案)の策定
2. 「研修の体系化」の実践：リーフレット作成、データ提供、研修履修一覧表の作成等
3. 「研修の体系化」に基づく研修会の企画運営：ステージⅠ・Ⅱ研修、第12回栃事研セミナー
4. 栃木県公立小中学校事務研究大会の企画

研究部 相澤恵美子 部長 (宇都宮市立姿川第二小学校)

研究部は、事務職員自らがアクションを起こして積極的に学校経営参画を進めるために、質の高い学校事務を展開する事務職員の姿を追求します。

今年度は、

- 1 学校事務職員の未来像に関する研究を推進します。
- 2 平成28年度関プロ大会長野大会分科会提案に向けて研究を進めます。
- 3 栃木県公立小中学校事務研究大会の企画運営に参画します。

また、栃木県における事務職員の実態はもちろん、近隣県における学校経営参画の実態を把握し、学校改善や学校課題解決に深く参画するとちぎの事務職員のあり方について検討したいと思ひます。ご理解とご協力をお願いします。

調査部 小野瀬直只 部長 (下野市立祇園小学校)

いつも年度初めのお忙しい中、学校数・事務職員数等調査にご協力いただきありがとうございます。

調査部では、会員の皆様、地区・支部の研究・研修活動の充実支援に活用していただけるよう「学校事務研究資料'14」の作成、発行にあたります。県内における学校数、事務職員数の情報、県内・県外のタイムリーな情報を提供します。どんどん活用していただければと思ひます。今までの情報は栃事研HPの「お知らせ」内に過去3年分入っております。また、アンケートや各種調査などで、会員の皆様をお願いすることもあります。ご意見、ご要望などをお聞きして、有効に研修・研究できるように努めていきたいと思ひます。その際にはどうぞよろしくお祈りします。

